

名称 筆塚

筆塚とは江戸時代に寺子屋や塾を開いていた師匠の墓を子弟が供養のために建てた碑で、筆子中、筆徒中筆塚等の文字が刻まれている。

この筆塚は師の富沢太郎左衛門 文政二年（一八一九）～明治五年（一八七三）のため、その子弟が建てたものである。

師は白子村名主の家に生まれ、その後分家し、晩年は子弟の教育に専念、近村庶民の尊敬を集めた。

子弟の範囲は付近はもちろん、向新田・原新田・吹上・浅久保・牛房・越戸・広沢・上赤塚等におよび、その数は百名をこえる。

教科内容は、いろはの手習い・読書・珠算で、自宅を教場とした。

出席は自由にさせ、子弟の意志によった。決して強制はしなかったようである。

したがって、経済的な報償は期待せず、奉仕的に行っていた。

碑の表に次のような句が刻まれているが、師の歩んだ人生がうたわれている。

「筒の世は、静かにおくれ五十年」

市内には、この筆塚の他に数基が確認されている。

昭和五十四年一月十五日

和光市教育委員会

和光市文化財保護委員会

名称 筆塚

筆塚とは江戸時代に寺子屋や塾を開いていた師匠の墓を子弟が供養のために建てた碑で、筆子中、筆徒中筆塚等の文字が刻まれている。

この筆塚は師の富沢太郎左衛門 文政二年（一八一九）～明治五年（一八七三）のため、その子弟が建てたものである。

師は白子村名主の家に生まれ、その後分家し、晩年は子弟の教育に専念、近村庶民の尊敬を集めた。

子弟の範囲は付近はもちろん、向新田・原新田・吹上・浅久保・牛房・越戸・広沢・上赤塚等におよび、その数は百名をこえる。

教科内容は、いろはの手習い・読書・珠算で、自宅を教場とした。

出席は自由にさせ、子弟の意志によった。決して強制はしなかったようである。

したがって、経済的な報償は期待せず、奉仕的に行っていた。

碑の表に次のような句が刻まれているが、師の歩んだ人生がうたわれている。

（花丸）
「□の世は、静かにおくれ五十年」

市内には、この筆塚の他に数基が確認されている。

昭和五十四年一月十五日（平成〇〇年〇月〇日一部修正）

和光市教育委員会

和光市文化財保護委員会